



# 九条の会. ひがしなだ ニュース

第55号

2014年8

事務局 中村陽一 Tel&Fax 811-4562 E-mail [youichi-nakamura@kcc.zaq.ne.jp](mailto:youichi-nakamura@kcc.zaq.ne.jp)

## 私のひとこと

### 今こそ行動を！

ついに安倍内閣が集団的自衛権行使容認を閣議決定した。まさに、安倍内閣はこれまで憲法9条で「できない」としてきたことを「できる」ということへと歴史的な転換をしようとしている。

このまま進めばどうなるのか。

「ナチスが共産主義者を攻撃したとき、自分はすこし不安であったが、とにかく自分は共産主義者でなかった。だからなにも行動にでなかった。

次にナチスは社会主義者を攻撃した。自分はさらに不安を感じたが、社会主義者でなかったから何も行動にでなかった。

それからナチスは学校、新聞、ユダヤ人等をどんどん攻撃し、自分はそのたびにいつも不安を感じましたが、それでもなお行動にでることはなかった。

それからナチスは教会を攻撃した。自分は牧師であった。だから立って行動にでたが、そのときはすこしおそかった。」

この有名なドイツのマルティン・ニーメラー牧師の言葉を今こそかみしめ、行動に移すときではないだろうか。

(九条の会. ひがしなだ 世話人 西谷利文)



## 「歴史に学ぶ」講演(2)

### 「安倍首相こそ、学習会に」と宮内さん

### 未来に向け、継承者となって語り継ごう

「戦争体験は、被害の側面だけでなく、加害や抵抗の側面からも」という問題意識から始まった「歴史に学ぶ」シリーズの2回目は7月26日(土)、東灘区民センターで行われました。

今回の講師は、1977年から神戸のカトリック系ミッションスクールで中学社会科、高校地歴科を担当してきた宮内陽子さん。神戸・南京をむすぶ会と兵庫県在日外国人教育研究協議会による、17回に及ぶ訪中団フィールドワークに関与してきた、豊富な実践経験をもとに、DVD上映も交えながら、「歴史に学んで得たもの」を、しっかりと語っていただきました。

宮内さんは冒頭、「歴史に学ばないと、どうなるか」と問いかけ、集団的自衛権の行使容認を閣議決定し、解釈改憲へと暴走する安倍政権を例にあげ、「安倍首相にこそ、ここに来て欲しかった」と批判。また、閣議決定の時、「かつて地上戦を経験した沖縄では号外が発行されたが、内地では朝日新聞をはじめ、「温度差」が大きかった」と指摘。「戦争体験をキチンと継承できていないことが、加害など無か



### 戦争体験継承の重要性を訴える宮内陽子さん

“幸存者”に背中を押されて、教員としての教育実践にもいっそう力が入るようになりました。

そのひとつが、本多勝一著「中国の旅」の読后感想文の提出を宿題とし、批判があっても定年退職まで継続し抜いたこと。もうひとつは戦死者の墓銘碑を調べる課題で、統計をとり、生徒たちと一緒に戦争を学び直すことによって、「加害をさせられる被害者」という認識に到達したこと。そうした過程で、「語り部に頼るのではなく、自分が継承者となって、語り継ぐ」決意を固めました。

「歴史を学ぶことは、過去ではなく、現代と未来にかかわること」と強調し、今夏の第18回訪中団の報告会を9月上旬、学生青年センターで予定しています。(田所明治)

## 辛淑玉（シンスゴ）さんとのトークセッションに参加しよう！

今年2014年の年明け、東京都内の図書館で「アンネの日記」が次々と破られる事件が起きました。街ではレイシズム（民族差別）を煽るデモが行われ、インターネットにはヘイトスピーチ（差別扇動表現）があふれています。

2012年に誕生した第二次安倍内閣は、当初の狙いであった明文改憲までは手をつけていないものの、秘密保護法の強行、閣議決定で集団的自衛権に関する憲法解釈を変更するなど、民主主義を無視し、着実に「戦争ができる国」づくりを進めています。

差別、民主主義の無視と憲法破壊、戦争ができる国づくり。これらの問題を貫くのは何でしょうか。それを乗り越え、公正で民主的で平和な日本をつくるためにはどうしたら良いのでしょうか。

辛淑玉さんを中心に、関西で差別反対運動を展開する仲間たちとのトークセッションです。ぜひみなさんも参加して、一緒に考え、行動してください。



**トークセッション：「辛淑玉さんとともに考えよう ～平和と人権—レイシズム問題を中心に～」**

**日時 8月30日(土)14:30～17:00**

**会場 兵庫県保険医協会5階会議室(神戸フコク生命海岸通ビル5階)**

辛淑玉さん：「のりこえねっと」（ヘイトスピーチとレイシズムを乗り越える国際ネットワーク）  
共同代表。在日三世。人材育成コンサルタント。

著書：『怒りの方法』、『悪あがきのすすめ』（ともに岩波新書）、『差別と日本人』（角川テーマ21）、  
『大人の女の流儀』（PHP研究所）など多数。（兵頭憲一）

## 平和随想

## 楽しく、コツコツと

坂本 知可

昨年は、日本版 NSC がコツと発足、秘密保護法を強行裁決、そして、今年に入り、集団的自衛権行使容認の閣議決定・・・と、私たち国民は置いてけぼりで、国はズンズン良からぬ方向へ進んでいきます。私たち若手弁護士も、そんな情勢、さすがに放っとかれへん、というわけで、昨年、「明日の自由を守る若手弁護士の会」（通称「あすわか」）を立ち上げました。兵庫支部も昨年10月に立ち上がり、現在は月1回、JR「神戸」駅前での早朝宣伝、各地での寸劇、出前講座、憲法カフェなど、精力的に活動中です。

特に、寸劇は、兵庫支部の特徴的な活動です。「憲法ができるまで」と題して、“立憲主義”についてわかりやすく伝える寸劇を上演しています。秋には、「戦争が起きるまで（仮）」という新作の上演を、予定しています。

次は、秋の臨時国会が正念場。つつい焦ってしまうこともありますが、運動は、地道にコツコツと、そして、私たち自身が楽しく・・・。様々な人を巻き込みながら、やっていきたいと思えます。（弁護士 東灘区在住）

## 9条の会から請願署名よびかけ

### 集団的自衛権行使容認の閣議決定に抗議し、 今こそ主権者の声を全国の草の根から

7月5日、九条の会（小森陽一事務局長）から、上記の呼びかけがありました。

「今こそ、私たちは主権者として、集団的自衛権行使容認の閣議決定に対して、きっぱりと『NO』の意思を示し、『戦争する国づくりは許さない』との声を、全国の草の根からあげるときです。全国のすべての『九条の会』が、その先頭に立って、創意と工夫をこらした、多様な行動にたちあがることを呼びかけます」に、胸が震えました。

私たち「住吉地域9条の会」は、2006年6月から毎月1回、住吉地域の1軒1軒に九条の会のアピールを届け、アピールへの賛同署名をお願いしています。安倍政権の暴走に対し、「安倍さん、何考えてはんの、怖いねえ」の声と同時に、「戦争になんか絶対ならへん」「関心ありません」も多く、危機感を持っていました。そんな時に、この呼びかけが届き、九条の会の新しいポスター「憲法九条 希望をひらく」も手に入りました。



住吉駅前の掲示板に貼られたポスター

デイゴの赤い花が力強く咲き、目を引くデザインで、全国各地がこのポスターであふれたら、すごいことになるでしょう。

JR「住吉」駅前、阪神「御影」駅前の掲示板に貼ってあります。「九条の会は呼びかけだけでなく、自ら創意工夫をこらして動き出した」と感激していたら、次は請願署名です。九条の会が署名集約先になるのですから、集めやすいです。「九条の会.ひがしなだ」の講演会でも集め、署名数は日々、増え続けています。

呼びかけ・署名用紙・ポスターは、九条の会オフィシャルサイトから手に入ります。

主権者の声を集め、大きな運動にしましょう。

(山本和子)

## 7月8日、和田進名誉教授らを先頭に、元町通りを行く市民パレード

7月8日、憲法改悪ストップ兵庫県共同センターなどが主催する「特定秘密保護法・解釈変更による集团的自衛権を許さない7・8パレード」が行われました。沢山の市民が参加して、花時計からJR元町駅までパレードして、沿道の市民から激励を受けました。



## 「雨にも 風にもまけず」 暑中見舞いをいただきました

「平和随想」の第1回を飾った大槻倫子弁護士、「明日の自由を守る若手弁護士の会（あすわか）」の兵庫支部事務局長を務める吉江仁子弁護士らが所属する、あいおい法律事務所（中央区）から、風刺のきいた暑中見舞いが届きました。紹介します。

雨にも 風にもまけず

西にせんそうがあれば 出かけていってかわかり

フクシマでばくはつがあれば こわがらなくてもいいといい

けんぽう改正ができなければ オレが閣議できめるといい

金もちには もっともうけろといい

びんぼう人には がまんして税金を払えという

そういうものに わたしは負けない (「あべにもまけず」)



## 本山第一小の東に忠魂碑、校庭を抜け、やっと辿り着く

本山第一小学校のすぐ東に、「忠魂碑」が建っています。周辺には住宅が建ち並んで、今は入る道もなく、校庭を横切って、グリーン防球ネットをくぐり抜け、やっと辿り着くのですから、分からないのも当然といえば当然。

建てられたのは、1928（昭和3）年5月。忠魂碑の書は、陸軍大将 一戸兵衛とあり、裏面には帝国在郷軍人会本山村分会の分会長以下20人の刻銘があります。そして最後は村長 増田太郎右衛門、長尾良吉の両氏。工期が両氏の任期にまたがって、2人の名前になったのかも知れません。工事監督 西中平三郎の名前で締めくくられています。こうしてみると、軍国主義体制が末端まで、どうやってつくられていったのか、目に浮かんでくるようです。



## 映画「春を背負って」を観て

立山連峰すばらしい景色だ！冬山は過酷であるが、春夏秋冬と四季の移り変わりを見事にあらわしている映画である。5年前「剣岳点の記」で大ヒットした木村大作監督作品である。この作品は笹本稜平の同名小説を原作に、父から子へと受け継がれる想い、仲間を想う人間たちにスポットを当て、山に生きる人々の“家族”の物語が描かれている。

人間にはいろいろな生き方がある。劇中に徒労という言葉が出てくるが、無駄な骨折りもネガティブにとらえず、ポジティブに受け止めればいいんだと思った。2時間弱の映画だがあつという間の2時間であった。皆様もぜひご覧になってください。

東灘区 久家登志子



## 九条の会訪問記（その31）、西明石9条の会

### 危機感で新規に結成 「9の日」にこだわって活発に

「戦争する国づくり」へと暴走する安倍政権の動きに、危機感をつのらせ、立ちあがる9条の会の動きが目立ってきています。

「久しぶり」の声があがったのが、関学9条の会の大講演会（6月27日）。一方、新規に発足させ、月1回第1木曜の学習会に、9の日署名宣伝にと、大活躍で注目されているのが西明石9条の会。エリア内在住の宗藤泰而弁護士、井上喜博武庫川女子大名誉教授、津川知久兵庫労連議長を呼びかけ人に、明石市内6番目の会として、昨年5月17日に発足しました。

「初心忘れるな」の思いも強く、今年の1周年総会も結成時と全く同じ5月17日に開催、講師もまた同様に、上脇博之神戸学院大教授。ちなみに、毎月1回の署名宣伝行動も、よほどのことがない限り「9日」に固定し、5つのブロックに分け、駅前やスーパー前などを順に回って、市民に親しまれています。

また、月1回発行の「9条だより」は、A4判表裏2ページのモノクロで、発行日は、これまた「9日」にこだわっています。連載企画では「明石の戦跡」、「シリーズ 私の戦争体験」が、出色です。

“戦跡”と言っても、空襲犠牲者慰霊の「みがわり地蔵」のように、戦後に建てられたものが多いのが特徴。中には川崎航空機工業が建てた供養塔もあって、「九条の会」の事務局長で、東大大学院教授の小森陽一氏の父良一氏が、「学徒動員ため、川崎航空機で働かされていたが、たまたま代休だったため自分は“九死に一生”を得た。講演で明石へ行く陽一氏に、自分の身代りで犠牲になった方々への追悼を依頼された」というエピソードも、さりげなく紹介されています（昨年12月9日発行の第6号）。

その小森陽一氏を招いて、10月4日（土）午後2時から、明石市民会館で、「活かそう9条2014 ～『若者を戦場に送る国』にさせるな！～」を開催します。主催は、市内6つの9条の会による実行委員会で、今秋のビッグイベントと位置づけています。

「情勢に、敏感に反応する」ことも、基本方針のひとつ。「戦争する国づくり許さない7・20緊急明石集会」にも、大挙して参加し、抗議の意思を示しました（写真）。

この7・20緊急集会は、総勢250名を超え、今までのパレードと違って、「自前のプラカード」を持つ人が多く、「言いたくて仕方のない人」が集まり、「沿道の人の反応も良好」と、大いに気を良くしているところです。（田所）



7・20緊急明石集会に参加して